

令和3年度
(2021年度)

学校教育部の取り組み実績

<部長の方針・考え方>

- ① 子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす学校教育の充実
～SDGsの目標4（質の高い教育をみんなに）を踏まえた学校教育を～
- ② 一人一人の子どもに寄り添った安全安心な居場所の確保
- ③ 教職員の働き方改革の実現

具体的な取り組み：学力向上のための授業の改善・家庭学習の充実

～ GIGA スクール構想元年 一人一台タブレットを活用して ～

「Hirakata 授業スタンダード」（第2ステージ）に基づいた授業研究・研修を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めます。

「枚方版 ICT 教育モデル」に基づき、枚方市の LTE タブレット端末の特長である「いつでも」「どこでも」オンラインにアクセスできる環境を活用し、「授業が家庭学習へ」「家庭学習が授業へ」とつながるシームレスな学びをめざします。

具体的で効果的な取り組みを学校間で共有できる「HI-PER」のシステムや、教員と市教育委員会の指導主事で構成される「情報教育推進ワーキングチーム」等を通じて、すべての学校が主体的に取り組めるよう進めていきます。

併せて、学校が授業や様々な教育活動の様子を積極的に発信できるよう、昨年度から試行実施しているブログの活用についての効果を検証し、よりタイムリーで分かりやすい情報発信のあり方を構築しながら本格実施をめざします。

中学校 19 校に加え、小学校 12 校に 6 名の学校司書を配置し、子どもたちの読書習慣の確立や情報活用能力の育成を図ります。また、図書館サービスとして開始される電子図書については、一人一台のタブレット端末を利用して、授業や家庭学習への効果的な活用を進めます。

コロナ禍における臨時休校時や、感染拡大により不安を感じて登校しない児童生徒がいる場合でもタブレット端末等を活用し、学習支援を継続していきます。

実績

- ① 「Hirakata 授業スタンダード」（第2ステージ）に基づいた授業研究・研修の充実。
- ② LTE モデルのタブレット端末を生かした学校と家庭学習とのシームレスな学びの推進。
- ③ 「HI-PER」システムや「情報教育推進ワーキングチーム」等の学校間連携による授業改善・業務改善。
- ④ 学校ブログを活用し、学校が児童生徒の様子や教育活動の様子などの情報発信を推進。
- ⑤ 市内全 19 中学校、及び 12 小学校に学校司書を配置。
- ⑥ 朝読、読み聞かせ、ビブリオバトル等の読書活動の実施、及び学校図書館オリエンテーションやレファレンス等を実施。
- ⑦ 「令和3年度枚方市学校図書館活用事例集」を作成。

説明

- ① 「令和3年度 授業力向上研修〔Hirakata 授業スタンダード〕研修」を9月6日（月）と10月14日（木）に実施し、小・中学校の教職員が各校1名以上受講しました。研修終了後の振り返りアンケートでは、「理解できたか。」「有意義な研修だったか。」いずれの項目についても100%の肯定的回答でした。
- 令和4年度は、授業力向上研修〔Hirakata 授業スタンダード講座〕（全2回）の実施に加えて、小・中学校初任者研修でHirakata 授業スタンダードについての講義を小・中各1回実施し、研究授業においてHirakata 授業スタンダードを意識した授業づくりができるように指導していきます。
- ② 令和3年度末の児童・生徒アンケートでは、「次の授業で自分の考えや意見をしっかり交流できるように、タブレット端末を使って家で調べたり考えたりして、事前に先生に提出するような課題はありますか。」の問いに、「ある」と回答した児童・生徒が75.7%で令和2年度より0.4ポイント上昇しました。また、「家庭学習では、授業中にグループで行っていた学習の続きを、タブレット端末を使って友達と協力して行うような課題はありますか。」の問いに、「ある」と回答した児童・生徒が64.3%で令和2年度より6.1ポイント上昇しました。
- 令和4年度は、さらに学校と家庭学習とのシームレス化が進むよう研修や様々な機会を通じて推進していきます。
- ③ 情報推進ワーキングチームを中心にICTを活用した実践事例を81事例追加収集しました。ICTを活用した実践事例は、前年度と合わせて約500事例を超え、「HI-PER」システムにより市内の全教職員がいつでも必要に応じて参照を可能とすることで、学校が主体となって授業改善・業務改善につなげました。
- 令和4年度は、「枚方版ICT教育モデル」に基づいた「5C」の視点を特に意識し、深い学びに繋がっている実践事例を各学校年間4事例以上収集し、さらに授業改善を推進していきます。
- ④ 学校ブログを活用した適切な情報発信を推進し、令和3年度は枚方市立全小中学校で50,365回の投稿がありました。内容は児童・生徒の学習の様子や給食の様子といった校内の教育活動の様子や校外学習での子どもたちの活動の様子を保護者や地域に向けて発信しました。
- 令和4年度は、学校ブログの本格実施に伴い、保護者や地域に向けて、今まで以上にタイムリーでわかりやすく工夫された情報の発信を図っていきます。
- ⑤ 児童・生徒の読書活動を推進し、授業において課題解決や探究活動に取り組む力を育むため、市内全19中学校区、及び12小学校に学校司書を配置し、市立図書館と連携しながら、学校図書館の環境整備・有効活用に取り組みました。
- 令和4年度は、市内全19中学校区への学校司書配置を継続するとともに、研究推進校を20小学校へと拡げ、学校図書館の環境整備、児童・生徒の読書習慣の確立、調べ学習等、授業における学校図書館の活用を推進していきます。
- ⑥ 児童・生徒の読書習慣の確立に向けて、朝読は小学校45校、中学校18校、読み聞かせは小学校41校、中学校1校、ビブリオバトルは小学校1校、中学校

	<p>14校において実施されました。また、授業においても小学校44校、中学校19校において学校図書館の活用がありました。</p> <p>令和4年度においても引き続き、読書に対する意欲の喚起や読書量の増加に向けて、朝読書やビブリアトル等読書活動の充実を図っていきます。</p> <p>⑦ 学校司書を配置した、12小学校での学校図書館を活用した効果的な授業実践例を集め、「令和3年度枚方市学校図書館活用事例集」を作成しました。</p> <p>令和4年度は、全小中学校に事例集を送付するとともに、研究推進校で作成した学校図書館全体計画を例として示し、全小中学校において全体計画を作成していきます。</p>
--	---

具体的な取り組み： いじめ、不登校等の未然防止
～GIGAスクール構想元年 一人一台タブレットを活用して～

いじめは重大な人権問題であるとの認識のもと、被害者の精神的苦痛や不安を克服するとともに、加害者への教育的配慮を行うなど、誠実かつ丁寧な組織的対応を行います。そのために、教職員の研修等を充実させ、自らの人権感覚や人権問題に対する正しい理解を身に付けるよう努めるとともに、子どもの育ち見守りセンターと連携し、SSW（スクールソーシャルワーカー）やスクールロイヤー等の専門家を活用したチームによる支援体制を整え、未然防止・早期解決をめざします。

不登校の兆しのある児童生徒へのきめ細やかで適切な対応や、ICTを活用した活動等、個に応じた支援に努めるとともに、市立学校への復帰以外の選択肢を認めるなど、一人一人の子どもに寄り添った支援を行っていきます。

児童・生徒の気持ちを視覚化するツールの活用を中学校2校、小学校4校に増やし、児童・生徒への理解と支援について実証の上、検証を行います。児童・生徒の心の変化により早く気づき、これまで以上に一人一人に寄り添った支援が行える体制を充実させていきます。

特にコロナ禍により様々なストレスや不安を抱えている子どもたちの心に丁寧に寄り添い、一人一人に合った支援ができるよう、市教育委員会としてバックアップしていきます。

<p style="text-align: center;">実績</p>	<p>① いじめ、不登校の未然防止に向け、子どもの育ち見守りセンターと連携し、専門家を活用したチームによる支援体制を整備。</p> <p>② 不登校の兆しのある児童生徒に寄り添った支援を実施。</p> <p>③ 児童・生徒の気持ちを視覚化するツールの活用を実施。</p>
<p style="text-align: center;">説明</p>	<p>① いじめについては小さな事案から丁寧に対応する視点から認知件数が令和2年度と比較して、小学校で652件増加し1,310件、中学校で35件増加し305件でした。今後も専門家との連携を含めた組織的な生徒指導体制を強化し、継続して解消に向けた取組を進めていきます。</p> <p>② 令和3年度の不登校児童・生徒数は令和2年度と比較し、小学校では64人増加し280人、中学校では109人増加し591人でした。6中学校区にはスクール</p>

	<p>ソーシャルワーカーを配置して、ケース会議のコーディネーターや家庭訪問を実施するなど、個に応じた支援を行いました。さらに、適応指導教室「ルポ」においては、学習活動やグループ活動を通し、社会的な自立のための支援や指導を行うとともに、保護者の気持ちに寄り添った対応をしました。</p> <p>令和4年度は長期にわたる欠席の原因や状況を分析し、どのような支援が必要かを見極めた上で ICT を活用した活動等、個に応じた支援を行っていきます。</p> <p>③ タブレット端末を活用して、児童・生徒の気持ちを可視化し、子ども理解と支援を進める取組について検証を行いました。</p> <p>令和4年度もいじめや不登校をはじめ、様々な困りごとを子どもが一人で抱え込むことがないよう、子どもが発する心のサインを可視化する ICT を活用した新たなシステムを関係各課と構築していきます。</p>
--	---

具体的な取り組み：英語教育の推進

小学校にも NET を派遣し、児童の英語学習への意欲の向上を図ります。また、35 人学級編制実施の動向を見極めながら、府加配に加え、市独自でも英語専科教員を採用し、小学校での専門的な英語教育を推進します。

中学校2学年を対象に外部検定試験を実施し、結果分析をもとに授業改善を行い、英語4技能のバランスのよい育成と学習意欲の向上を図っていきます。

関西外国語大学との連携による小学校教諭の大学の講義への参加や、コロナ禍でも開催可能な「枚方英語村」の実施など、子ども・教員の英語によるコミュニケーション能力を育成する取り組みを進めます。

<p>実績</p>	<p>① 全中学校に NET、小学校に JTE または専科教員を継続配置、希望する小学校に NET-E を巡回配置。</p> <p>② 英語外部検定試験の実施。</p> <p>③ 関西外国語大学との連携。</p>
<p>説明</p>	<p>① 上記の配置をすることで、英語を使った体験的な学習を実施しました。また、小学校での外国語の授業においては、校区中学校の NET の派遣やタブレット端末を活用した NET による遠隔授業を実施しました。</p> <p>② 中学2年生において、英語外部検定試験を令和4年1月に実施し、結果分析をもとに、個に応じた指導に活用しました。</p> <p>令和4年度からは、英語外部検定試験に代えて、中学2・3年生を対象に、タブレット端末を活用した英語学習アプリを導入し、英語4技能の向上に努めていきます。</p> <p>③ 教員の英語指導力の向上に向けて小学校教諭1名を関西外国語大学の講義に参加させました。また、小・中学校の教諭と関西外国語大学の教授で会議を持ち、授業改善に生かしました。</p>

	関西外国語大学と連携した枚方英語村は、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止しました。
--	--

具体的な取り組み：放課後の安全な居場所づくり

すべての児童が放課後を安全安心に過ごし、多様で自主的な活動に参加できる環境整備として、民間活力も活用した「総合型放課後事業」を進めます。

今年度は、小学校4校（民間：2校、直営：2校）において、土曜日及び三季休業期に「放課後キッズクラブ」を実施し、運営ノウハウの蓄積やモニタリング、アンケート調査等による検証を行うとともに、平日における安全な居場所の確保に向けた試行的な取り組みについても検討を行い、全小学校における実施をめざします。

実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和3年4月から、小学校4校（直営2校：川越・津田、委託2校：山田・サダ）にて先行導入を開始。 ② 放課後子ども教室の運営に対する満足度に関しての保護者アンケートを実施。＜楽しいと回答した児童の割合：約76%＞ ③ 令和4年3月に総合型放課後事業実施プランを策定。
説明	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和3年度においては、「総合型放課後事業（放課後キッズクラブ）」を土曜日及び、三季休業期の実施で、小学校4校（直営2校：川越・津田、委託2校：山田・サダ）に先行導入しており、その検証結果等を踏まえ、全小学校への平日を含む本格導入に向けた検討を行いました。 ② 令和3年度の5月・8月・1月に、先行導入している小学校4校（直営2校：川越・津田、委託2校：山田・サダ）の放課後子ども教室の運営に対する満足度に関して、令和5年度からの全小学校で実施するための参考とするため、保護者アンケートを実施しました。 ③ 「児童の放課後を豊かにする基本計画」における放課後対策を具体的に進めていくため、新たに着手する取り組みや早期に実施すべきことを抽出し、事業の相乗効果が発揮できるよう具体的な取り組みの考え方や方向性、スケジュールを明らかにするため、令和4年3月に「総合型放課後事業実施プラン」を策定しました。

具体的な取り組み：学校の業務改善

教員が働き甲斐を感じ、誇りをもって生き生きと教壇に立つことで、学校教育の水準の向上をめざします。今年度は、校長の学校経営・組織運営方針に「教職員の働き方に関する視点」を盛り込み、学校全体として、業務改善に向けた取り組みを進めるよう支援していきます。また、業務アシスタントを配置している業務改善推進校の具体的な好事例をすべての学校で共有化していきます。

コロナ禍を踏まえる中で、これまでの教育活動の意義や内容を改めて見直し、新たな発想と工

夫で、より子どもたちにとって有意義な取り組みが行われるよう、市教育委員会として、業務の整理や適正化を行っていきます。

実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 業務改善推進校の定期的な取組交流と情報発信。 ② 管理職の労務管理意識の向上に向けた取組推進。
説明	<ul style="list-style-type: none"> ① 業務改善推進校取組特集①～⑤を全校に通知したり、研修の様子を GIGA スクひらかたやブログにて情報発信をしました。 ② 労働安全衛生にかかる専門家による研修や指導主事によるミニ研修を実施しました。

具体的な取り組み：民間等との連携による体力向上

大阪体育大学との連携により、研究校として指定した小学校 2 校を中心に、児童の特性を踏まえた体力向上に係る研究を進めます。研究成果については全小学校に発信し、効果的な体育授業例の共有化を図ります。

また、小学校 1 校で行う民間施設を活用した水泳指導について、民間専門スタッフによる児童の泳力向上及び、教員の指導力向上の効果と課題について検証します。

実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 大阪体育大学と連携した体育授業の改善。 ② 民間施設を活用した水泳授業については、新型コロナウイルスの感染防止のため中止。
説明	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究指定校 2 校において、大阪体育大学と連携して当該校児童の特性を踏まえた体力向上に係る授業研究を進めました。研究成果については、全小学校に動画発信し、各校において効果的な体育授業の構築に向けた取り組みを進めました。 令和 4 年度においても、児童の特性を踏まえた体力向上に向けた効率的な体育授業の構築に向けて研究を進めていきます。 ② 新型コロナウイルス感染予防の観点から、枚方市内全小・中学校の水泳に授業を中止したことに伴い、民間施設を活用した水泳授業も中止しました。